住宅地の居住環境整備　－きたまち－

きたまちは東大寺西側に広がる地区の通称で、本学もこの地区に立地します。伝統的な町家・農家風民家が集積する歴史的市街地で、この地区を対象に地域貢献事業として取り組んだのは、「旧南都銀行手貝支店保存活用プロジェクト」、「大門市場活性化プロジェクト」、「町並みの図面作成プロジェクト」である。

旧南都銀行手貝支店保存活用プロジェクト

国宝東大寺転害門の北側に、昭和４年に南都銀行手貝支店として建てられた町家があります。現在は奈良市の所有になり取り壊しの予定がありました。このプロジェクトは、住環境学専攻の学生・教員と地域の町づくりグループが協働で保存活用の方策を検討し、その道筋をつけたものです。まず、３年生の「測量学」の授業で、この町家の実測と転害門前広場の測量を行い、教員が調査しました。次に、４年生の「設計演習Ⅳ」で、その保存・活用案を作成し、７月のオープンキャンパスで、公開講評会を開いて、それらの案の披露をしました。同時に町づくりグループ、地元自治会、住環境学専攻教員からなる協議会をたちあげ、調査結果、活用案の提案などを検討しながら、具体案をとりまとめました。さらに、協議会名で奈良市長に活用案の提案を行い、次年度以降本格的な活用案の検討に入ることになりました。また、プロジェクトを進める過程で、この町家が大正・昭和戦前期奈良を代表する建築家岩崎平太郎氏の設計であることが分かったことも収穫でした。

国宝転害門前での測量実習

奈良新聞　2006.10.28

大門市場活性化プロジェクト

転害門の向かいにある大門市場は、昭和30年代につくられました。近年、利用者が減り、空きブースが増えています。このプロジェクトは、市場の皆さん、地域の町づくりグループと、住環境学の学生・教員が協働しています。年度はじめから大売り出しでアンケート調査などを継続的に進めましたが、もっとも大きなイベントは、学園祭期間中（10月28～30日）に実施した「大門市場カフェ」です。

カフェは、大門市場の空きブース３つを活用し、企画・インテリア設計・材料購入・材料加工・施工まで、すべて学生が行ったものです。カフェのメニューも、市場で販売されている食材を使いました。同時に、周辺の観光案内地図を載せたリーフレットも作成し、奈良市の観光案内所等で配布しました。「大門市場カフェ」は、テレビ・新聞にも取り上げられ、大きな反響がありました。住環境学専攻では、週１回のデザインセミナーが開かれており、そのメンバーと指導役の大学院生と学生が、このプロジェクトの中核メンバーとなりました。

大門市場カフェ

町並みの図面作成プロジェクト

「景観デザイン実習」の授業時間を使い、大門市場の南の通りの両側約100ｍの範囲を対象に、連続立面図を作成しました。毎年この授業では大学周辺の町内において実測調査を行い、連続立面図を作成しています。今年度は地元自治会の協力を得て、大門市場の南の通りで実施しました。現場での実測調査を４回実施し、その後大学において図面作成を行い、図面の下書きに１ヶ月、仕上げのインキングに１ヶ月をかけ、１枚１枚の図面が完成しました。今後はそれらをつなげて連続立面図を作成し、公開する予定です。今後もこのプロジェクトを継続し、町づくりの基礎資料として整理していきます。

連続立面図の作成作業